

小学校・道徳の内容項目の解説

真理愛・創意工夫

●小学校学習指導要領（平成20年3月）

1 主として自分自身に関すること		〔一般的な呼称例〕
低学年	-----	
中学年	-----	
高学年	(5) 真理を大切にし、進んで新しいものを求め、工夫して生活をよりよくする。	真理愛・創意工夫

●解説

関連の説明	自己をより創造的に発展させ、新しく進歩したものを積極的に取り入れ、創造し、工夫する態度をもった児童を育てようとする内容項目である。それは、科学的な探究心とともに、物事を合理的に考え、真理を大切にしようとする態度を養う中で育つものである。
全体的な理解	児童は、知らないことを知りたいという欲求をもっている。しかし、物事への興味・関心が薄れ、教えてくれることを待つ受け身的な傾向が強まることも見られる。児童が疑問を大事にし、物事のわけをよく考えたり確かめたりして、個性ある考え方が認められるような経験を積み重ねることが重要であり、そのような中で、真理を愛する心や、生活を改善していこうとする態度ははぐくまれると考えられる。特に、今日の変化の激しい社会においては、主体性をもって柔軟に対応し、科学的な探究心を育て、新たな自己をつくっていくことが求められる。なお、このような態度は、第3・4学年の段階においても、例えば、正しいと判断したことを勇気をもって行うことなどに関する指導を通じてはぐくまれている。
低学年	-----
中学年	-----
高学年	第5・6学年にもなると、児童は次第に現状に甘える傾向も見せる。その殻を破って、児童の感じ方や考え方をより創造的で可能性に富むものにしていかなければならない。特にこの段階においては、真理を求める態度を大切に、創造的で知的な活動を通して興味や関心を刺激し、意欲を喚起させ、物事を多様な発想でとらえるとともに、自分の生活を少しでもよくできないかと考え、工夫できるよう指導することが大切である。

文部科学省「小学校学習指導要領解説・道徳編」（平成20年8月）より

■参考：中学校学習指導要領（平成20年3月）

1 主として自分自身に関すること		〔一般的な呼称例〕
(4) 真理を愛し、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。		真理愛・理想の実現